

第612回番組審議会報告

2016年10月4日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 津村記久子委員 中野健二郎委員
東野博昭委員 丸山雅也委員 佐藤卓己委員(書面) 細見良行委員(書面)

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 浜田取締役 宮田取締役 虫明ラジオ
局長 竹田編成局長 大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆報告事項

- ①ラジオ・テレビの10月改編の概要について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。
- ②放送番組種別の公表制度に基づき、平成28年度上期(4月～9月)の番組種別ごとの放送時間を編成局長が報告した。あわせて同期間のCM総量および10月以降の基本番組表についても報告した。

◆審議事項

テレビの「全国ネット番組」(主に2016年度上期の番組)について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

ー『あさチャン!』

- 夏目三久さんをはじめフレッシュな顔ぶれに好感が持てるが、芸能、スポーツが目立ち過ぎていて、政治・経済などの報道面が弱い印象だ。
- 朝らしく素直に見ることができる。ニュースらしいニュースを扱っていて、ピンクを少しあしらった画面はごちゃごちゃしてなくてすっきりしている。

ー『白熱ライブ ビビット』

- 真矢ミキさんは、ときおり思い切った意見を言うなど、当初に比べてコメントがよくなってきた。本音トークな感じがして好感が持てる。真矢さんや国

分さんの個性をもっと出していけばよい。

- 生ワイドの特徴だが、番組の後半にCMが頻繁に入る。一つの番組としてのまとまりが最後のほうはだんだんなくなっていく。何とかならないものか。

— 『ひるおび!』

- MCの恵俊彰さんは“さばき”に相当磨きがかかっている。出演者をうまく生かして、生番組で情報をさばくということでは今一級の方だと感心する。

— 『新・情報7daysニュースキャスター』

- 見ている飽きない情報番組。土曜の夜に1週間を振り返るというのは効率がよくてありがたい。出演者が少なく、非常にシンプルなつくりだけに北野武（ビートたけし）さんの存在に負うところは大きい。
- 1週間の出来事、ニュースの流れをまとめていて見やすい。ただ、北野武さんの発している言葉がはっきりしないので、何を言っているのかよくわからないことがある。

— 『がっちりマンデー』

- 毎回、テーマ選択のおもしろさに感心している。情報がすごくタイトに配置されていて、豆知識も得られるし、ゲストの人選もよく考えられている。中身がすごく詰まっていて、密度も完成度も高い。

— 『サンデーモーニング』

- “あまりに安定感がある”現状をいつまで維持できるのか。関口宏さんをはじめ、コメンテーターの高齢化も気になる。たとえば、議論が好きな岸井成格さんがいるのであれば、たまには色の違った有識者を招いて、あの場で議論するようなことも必要なのではないか。しかし、それは日曜朝の固定ファンにとっては逆効果になるのかなとも思う。
- スポーツコーナーでの張本（勲）さんのコメントに対し、異論がありそうな場面でも、たいていそのまま流している。たまには関口さんが疑問符を突き

つけたり、嫌味を言えばよいのに、と思う。

— 『NEWS 23』

- 3月末に星浩キャスターに代わり、番組もリニューアル。スマートで明るいスタジオになり、画面が見やすくなった。ニュース項目が変わる際のテロップ等もメリハリが効いている。ただ、コメント部分が少ないため、まだ星さんの個性があまり出ておらず、ツッコミ不足を感じる人が多い。7月に新たに加わった雨宮塔子さんはまだこなれていない。
- 朝型の生活をしている人には視聴できない時間帯であり、すでに20時以降に他局でニュースに接した視聴者がさらに見るとは思えない。東京型深夜生活を標準と考えず、放送時間を検討すべきではないか。たとえば『NEWS 19』とか。

— 『報道特集』

- 他の民放の番組に比べて質の高い情報を伝えており、特集も見応えのあるものが多い。

— 『報道・ニュース全般』

- 報道・ニュース全体で言うと、今“TBSの顔”は誰なんだというのが見えないのが非常にもどかしい。
- JNNのニュースの特徴というのは“手堅さ”。報じ方も報道の順番、ニュース価値の選択も、奇をてらわないオーソドックスな目を感じる
- ニュースで気になるのは、字幕の誤字とか、次の項目になったのに前のニュースのテロップが残るなど、放送上のミスが目につくことだ。昔のニュースに比べて過剰なほど字幕が多用されているが、使う以上はしっかりチェックすべきだ。

— ドラマ『重版出来!』

- 今年のドラマのなかで最も一番面白かったものの一つ。若者のテレビ離れが

言われる現在、新入社員が会社で頑張っている姿を映し出し、出版業界の小ネタもちりばめており、“教養ドラマ”とでも評したい出来だった。

—ドラマ『99.9—刑事専門弁護士—』

- 駄ジャレと小ネタが満載で、突き抜け感があってとてもおもしろかった。(弁護士としては)「実務ではそんなことはないぞ」といった野暮なことを言うつもりはない。「刑事弁護ってこんなんよ」という核心部分を外していないドラマというのは、いくら実務と違っていても楽しめる。

—ドラマ『せいせいするほど、愛してる』

- 見かけたのだが、テーマ設定についていけず、途中で見るのを断念した。この時期になぜ不倫ドラマなのかと思ったし、若い女の子は見ないだろうし、主婦には反感を買うだろうし、どの年代をターゲットにつくっているのか疑問に思った。

—『ドラマ一般』

- 最近は漫画を原作にして若者とか女性層をターゲットにしている作品ばかりで、(私のように)50歳を超える男性たちが心ひかれるドラマが少ない。
- TBSのドラマは一般的に、視聴率以上に「満足度」は高いのではないかな。

—『マツコの知らない世界』

- いまテレビに出る人には、にぎやかさやケレン味が求められるが、「この人ひとりがいるだけで十分」と思えるのがマツコ・デラックス。ゲストのプレゼンに「へえ、ほう、すごい」と反応して、マツコ一人の判断で番組がつけられるところがむしろ新鮮だ。
- 受けて、ツッコんだり、ほめたり、冷やかしたり。マツコさんの頭のよさに感心する。また、ゲストの趣味がどんなに変わったものにみえたとしても、絶対相手を傷つけるようなことを言わないところがよい。

—『世界ふしぎ発見!』

- この番組を楽しみにしている方もいるだろうが、失礼ながら草野仁さんはもう賞味期限が・・・と感じる。視聴率は高く、30年以上続く長寿番組なので“番組の顔”を代えるのは難しいのだろうが・・・。
- ミステリーハンターに、単にガイドだけをするのではなく、快活さにあふれたリポーターを起用していて、見ていて元気が出る。

—『この差って何ですか?』

- 雑学的要素が盛りだくさんで、おもしろく有益だった。番組を見て、疲れをとるためにはいびきの防止が第一と知って以来、仰向けではなく横向きに寝るようになった。

—『バナナマンのせっかくグルメ!』

- 料理はおいしそうに食べる。だけど、あまり地元の人とコミュニケーションがとれていないような印象を受けた。結局、“おいしく食べるタレント”として選ばれているのか。せっかく地方へ行くのであれば、単なるごはん食べ番組ではないストーリーがあってよい。